

(様式2—2)

令和6年度	番号
-------	----

令和 6年 9月 12日

令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」事業計画書

文部科学省 総合教育政策局 局長 殿

所在地 〒812-0116
福岡県福岡市博多区博多駅南
1-14-7
法人名 学校法人麻生塾
(学校名) 麻生医療福祉&保育専門学校
代表者
職氏名 理事長 麻生 健

令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」
に関する事業計画書の提出について

令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」について、事業計画書を提出します。

令和6年度

番号

令和6年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」事業計画書

1 委託事業の内容

転換

2 事業名

医療現場の業務 DX に資する AI 人材育成に向けた学科転換事業

3 代表機関

■代表機関(申請法人)等

法人名	学校法人麻生塾
代表者名	麻生 健
学校名	麻生医療福祉 & 保育専門学校
所在地	福岡県福岡市博多区博多駅南 1-14-7

■事業責任者(事業全体の統括責任者)

職名	麻生医療福祉 & 保育専門学校 校長代行
氏名	友重 文徳
電話番号	092-415-2294
E-mail	tomosige@asojuku.ac.jp

■事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

職名	経営企画部 経営企画グループ グループ長
氏名	横溝 亜希子
電話番号	092-415-2327
E-mail	yokomizo@asojuku.ac.jp

4 構成機関・構成員等 (機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

(1) 教育機関

	名称	役割等	内諾	都道府県名
1	麻生医療福祉 & 保育専門学校	事業統括	○	福岡県
2	河原医療大学校(認定課程)	開発助言・普及	○	愛媛県
3	中央情報経理専門学校	開発助言・普及	○	群馬県
4	吉田学園医療歯科専門学校	調査・普及	○	北海道
5	鈴鹿医療科学大学	開発助言	○	三重県

※ 内諾済の場合には、内諾欄に「○」を記入(以下同じ)

※ 「役割等」においては、同一の役割を複数の機関で分担する場合、主担当となる機関の同欄に「◎」を記載すること(以下同じ)

※ 行が足りない場合は適宜追加して記載すること(以下同じ)

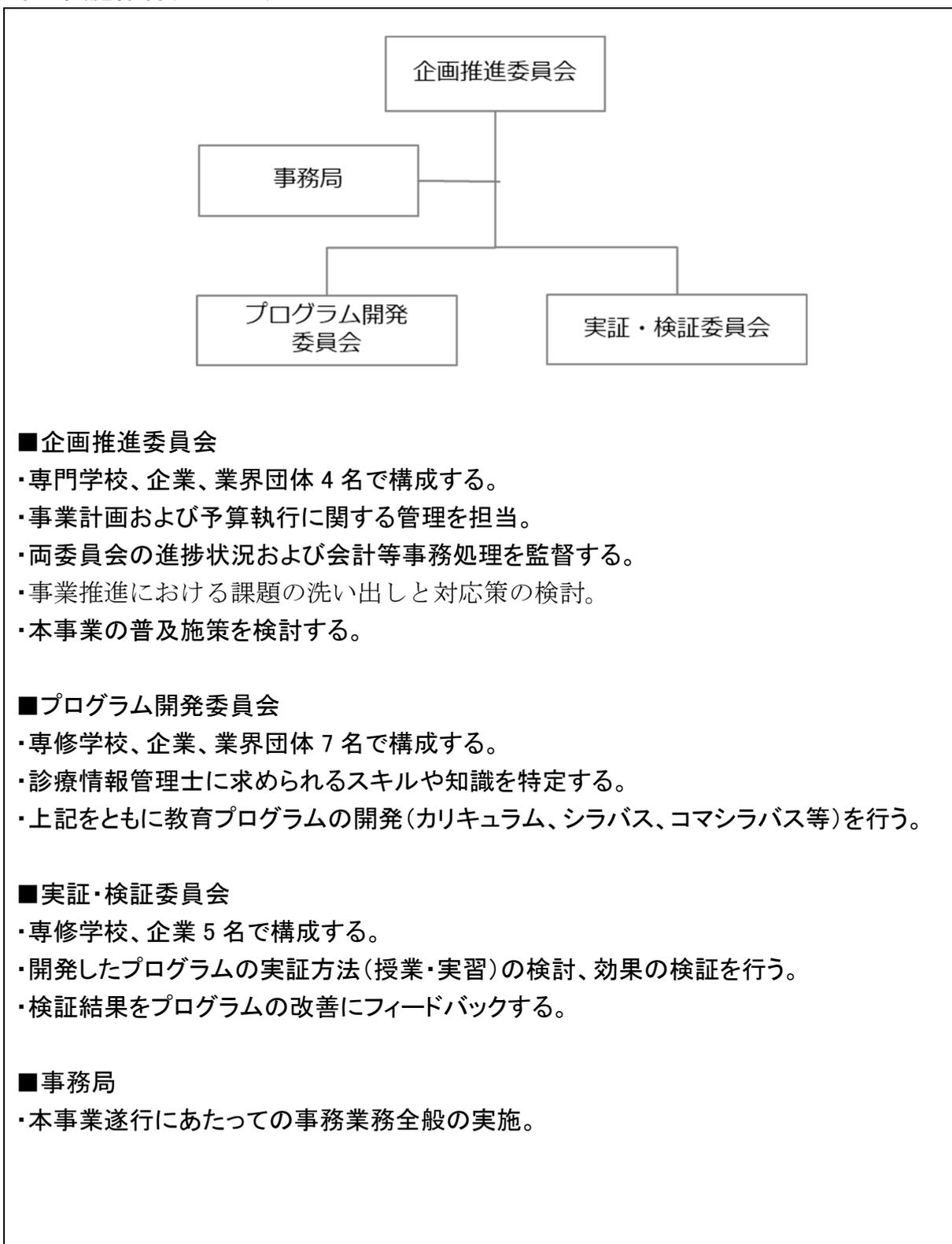
(2) 企業・団体

	名称	役割等	内諾	都道府県名
1	国立国際医療研究センター	調査・助言	○	東京都
2	医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院	調査・助言	○	神奈川県
3	九州大学病院	調査・助言	○	福岡県
4	鹿児島大学病院	調査・助言	○	鹿児島県
5	佐賀医大病院	調査・助言	○	佐賀県
6	株式会社 Colori	調査・開発	○	熊本県
7	公益財団法人九州先端科学技術研究所	助言	依頼中	福岡県
8	近藤憲児事務所	開発	○	福岡県
9	株式会社ネクストキャリア	助言・事業管理	○	福岡県

(3) 行政機関・その他

	名称	役割等	内諾	都道府県名
1	九州ヘルスケア産業推進協議会	助言	○	福岡県

(4)事業の実施体制(イメージ)



(5)各機関の役割・協力事項について

○教育機関

- ・カリキュラム開発委員会へ参画し、カリキュラム開発を行います。
- ・実証授業を実施し、参加した学生および教職員に対し検証を行います。
- ・各校での導入に向け、改善点の検討、カリキュラムの改善を図ります。

○企業・団体

- ・医療現場のニーズに基づき、カリキュラムへの助言を行います。
- ・AI等専門的な知識を要するカリキュラムの開発を行います。
- ・実証授業、実習の検証、分析を行います。
- ・実証実習の実施と開発したカリキュラムへの助言を行います。

○行政機関・その他

- ・産学官ネットワークを基にした市場ニーズ調査への協力と企画推進委員会への参画を行います。

5 事業の内容等

(1)事業の趣旨・目的等について

この事業は、専修学校の理系学科転換を通じて、医療現場でDXを推進する人材の育成を目的としています。電子カルテや診療情報のデジタル化など「医療DX令和ビジョン2030」による変革期を迎えている医療業界では、新しい情報システムに対応した医療経営や、サービスの向上、効率化が求められています。その経営課題に対して、新しい情報システムの基本的な仕組みへの理解があり、医療DXを実務面から支える人材が必要とされています。

本事業は、現在医療事務の実務を支えている診療情報管理士について、従来の資格取得中心の教育モデルから、情報システムの基本的な仕組みへの理解やAIリテラシーの向上と病院実習を重視した新カリキュラムを採用します。具体的には、AIの基礎から応用までの教材を整備し、医療データを分析・活用する能力を学生に習得させます。また、医療の質を向上させるスキルセットを提供し、実践力ある人材を育てます。さらに、病院実習によって学生は現場経験を積み、AIによる業務改善に貢献するスキルを身につけます。この実習成果をフィードバックしてカリキュラムを改善し続ける計画です。

本事業を通じて医療DXを牽引する人材を輩出し、地域医療の質向上と持続可能な医療システムの構築に寄与します。

(540文字以内)

(2) 当該モデルが必要な背景について

背景：医療業界における DX の推進

「医療 DX 令和ビジョン 2030」（厚労省、2022.5）では、全国医療情報プラットフォームの創設および医療 DX 推進機構の設置、電子カルテ情報の標準化（全医療機関への普及）、診療報酬改定に伴う DX 推進の 3 つの骨格が示されています。これにより、病院が保有する情報媒体は紙からデジタルに切り替わることとなります。

医療現場における問題・課題

現在、全国規模での情報利用が可能になるまで、個々の病院でデータ分析を行う必要があります。そのためには、各部門に存在するデジタルデータをビッグデータとして活用する基盤の整備や、データ分析の土台を整える能力と分析結果を経営に活かすスキルの育成が求められています。

診療情報管理の業務における変化

オートコーディングの性能向上によって、手動でのコーディングに費やす時間が減少し、データ分析など医療の質向上に寄与する業務へのシフトが期待されます。具体的には、電子カルテの導入と運用、情報共有と連携の強化、セキュリティ対策の強化、ビッグデータの活用が挙げられます。

これからの診療情報管理士に求められるスキル

次世代の診療情報管理士には、情報システムの基本的な仕組みへの理解や、AI やデータ利用のリテラシーを備え、各施設・病院において医療 DX を推進できる能力が求められます。診療情報管理士業務の基礎知識としては、コーディングなどの理解、医療制度等の基本知識、AI やビッグデータを活用するための知識、そしてそれらを適切にアウトプットする能力が重要です。また、医療現場での連携や情報共有が増えるため、コミュニケーション能力も不可欠です。

診療情報管理人材育成の現状の問題点

現状の人材育成には、医療現場におけるスタッフの IT リテラシー向上（AI、データ分析、情報セキュリティ等）が課題となっています。また、診療情報管理士を目指す学科では資格取得が目的となっているため、現場で求められるスキルとのギャップが生じています。

解決すべき課題

最終的には、医療 DX 推進により現場で求められる診療情報管理士のスキルを正確に把握し、それに応じた人材育成を遂行することで、医療 DX 化に伴う経営課題を実務面から支えていくことを目指します。

(3)開発するモデルの概要

●このプロジェクトで開発するモデルは、従来の多くの資格取得を重視する教育から、診療情報管理士と医療情報技師の認定取得に限定し、デジタルリテラシー（AI、データ分析等）の向上や病院実習に時間を再配分します。

	旧	新
カリキュラム	資格・検定取得	資格を限定し時間を捻出、デジタルスキルと実習を追加
デジタルリテラシー（AI、データ分析等）	なし	AIを活用したデータ分析、ソリューションが提案できる
病院実習（時間）	152時間	232時間
病院実習（内容）	医療事務作業 (窓口、受付、医師事務作業補助)	業務効率化（DX）

●現状

診療情報管理士科（3年課程）の授業は日本病院会の指定科目や資格取得対策に充てていますが、就職先病院への調査で以下が重要と判明しました。

- ①医療DX対応のデジタルリテラシー（AI、データ分析等）を習得していること
→ 病院は電子カルテ導入後も活用に至っていない
 - ②病院実習を通じた実体験が豊富であること
- これを踏まえ、資格取得中心の教育モデルを刷新する必要があります。

●専門学校の現状と課題

現在、多くの専門学校は文系学科として診療情報管理士科を運営し主に資格検定取得を重視しています。しかし、これでは将来の医療DX問題に対応するスキルは身につけられません。他校に先駆けてカリキュラムを見直し、AIリテラシーやデータ分析能力を持つ人材を育成する必要があります。

●当校の従来の教育内容と今回の変更点（資格を限定し、医学知識やAIリテラシーの学習時間を捻出）



(4)具体的な取組

i)計画の全体像

■令和6年度:

- **委員会の実施:** カリキュラムと実証方法について、教育専門家や実務者による意見交換会を定期的の実施する予定です。特に AI 技術の活用方法やデータ分析、最新の医療トレンドに焦点を当てます。
- **専門家ヒアリング:** AI 技術や医療分野の第一線で活躍する専門家から直接意見を収集し、最新情報と現場の課題を把握します。
- **調査:** 各地域の病院施設および全国の教育事例を対象にニーズ調査を実施し、医療教育現場の実態と要望を明確化します。
- **教育プログラム開発:** 収集したデータをもとに、具体的なカリキュラムとシラバスを作成し、実際の授業展開に向けた準備を進めます。
- **成果の検証:** 開発したカリキュラムを実際の教育現場で試行し、その効果を定量的かつ定性的に評価します。

■令和7年度:

- **専門家ヒアリング:** 前年度に引き続き、AI やデータ、医療団体の専門家から継続して意見を収集し、新たな知見や改善点を取り入れます。
- **実証:** 実際に教育現場で授業を行い、学生や教職員からのフィードバックを受けて実践的な成果を確認します。
- **教育プログラム改善:** 実証授業の結果を踏まえ、カリキュラムや指導方法をさらに改善・洗練させます。
- **成果の検証:** 改善後のカリキュラムを再度実施し、その成果を詳細に検証します。学生の学習成果や理解度、教員の指導スキルの変化を測定します。

■令和8年度:

- **委員会の実施:** 改訂されたカリキュラムや前年度の検証結果について、再度委員会を開催し、関係者間での意見交換を深めます。
- **報告書作成・展開:** これまでの活動内容と成果をまとめた事業報告書を作成し、関係機関や一般に公開します。
- **検証結果報告:** カリキュラムの有効性や改善点について、検証結果を詳細に報告します。
- **成果の検証:** 実習企業からのフィードバックをもとに、カリキュラムの実践効果をさらに検証します。具体的には、企業が求める人材像とのマッチング度合いを評価します。
- **他校で実証:** 他の教育機関でも同様のカリキュラムを実施し、その効果を多角的に検証します。
- **ヒアリングと検証:** 参加教育機関や学生へのインタビューを通じ、カリキュラムの実践的効果と改良点を探ります。各参加者の視点からのフィードバックを詳細に分析します。

ii)今年度の具体的活動

○実施事項の概要

●調査事業(2024年10月～12月)

カリキュラム開発にあたり、市場ニーズを明確にすることを目的に、以下3つの調査を実施する。

1. 病院などの医療機関における新卒採用人材に求めるスキルレベル調査
2. 病院などの医療機関におけるバックオフィス業務の現状調査
3. AIなどデジタルツールを用いた業務効率化に必要なAIおよびITリテラシー調査

※詳細は、「事業を実施する上で必要な調査」欄を参照

●開発事業(2024年12月～2月)

1. 教育プログラム育成像の特定と要件の可視化、再定義

調査結果を踏まえ、病院の現場で起こる業務的な問題をAIなどのデジタルスキルを前提とした改善ができる診療情報管理士を育成する専門学校が担うべき人材を特定し、その人材が備えておくべき知識や技術を整理する。

2. AI基礎、応用、演習授業で活用する教材

AIの基礎から応用、実際の病院の現場においても活用できる技術に昇華していくために必要な教材を完成させる。

また、AI人材以外の教員が授業を担当できるよう、教材の内容に即した教員用の指導マニュアル等も作成する。

【教材テーマの例示】

- ①AIとは何か
- ②AIの基本概念
- ③AIのサブフィールド(機械学習、教師なし学習、強化学習 等)
- ④AIの応用分野(医療におけるAI 等)
- ⑤AI技術、データ分析の基礎(データサイエンス、数学と統計学の基礎 等)
- ⑥AIに関する倫理と社会問題
- ⑦実践的なプロジェクト
- ⑧教員用指導マニュアル

3. 病院における実証実習のプログラム開発

委員会に参加する医療機関の委員と、病院実習でバックオフィス業務効率化を図るために必要なプログラムを完成させる。

①診療情報管理士の基本的な役割と責任を理解し、医療情報の収集、整理、保管、分析の方法を学ぶ。

②AIを用いたデータ管理と分析の実践スキルを習得し、医療データの効率的な活用方法を学び、実務に応用する。

③AIツールを活用した業務の効率化方法を学ぶ。医療データの分析を通じて診療の

質向上や経営改善に貢献するスキルを身につける。

4, 上記1, 2, 3, を実際に展開した際の教育効果を検証するスキームの開発

【詳細は次項に記載する】

①実際に学ぶ学生の AI リテラシー、スキルが入学当初からどのように推移していくか

②向上した状態で病院実習に臨み、AI 使用有無に応じた業務削減度合いの可視化（時間数、業務工数 等）

●会議予定

- ・全体会（2 回/対面開催）
- ・プログラム開発委員会（2 回/オンライン開催）
- ・実証・検証委員会（2 回/オンライン開催）

○事業を実施する上で設置する会議 ※複数の会議を設置する場合には、欄を適宜追加して記載すること。

会議名①	企画推進委員会		
目的・役割	事業方針や進捗状況、予算執行管理等の統括		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画および予算執行に関する管理を担当。 ・両委員会の進捗状況および会計等事務処理を監督する。 ・事業推進における課題の洗い出しと対応策の検討。 ・本事業の普及施策を検討する。 		
委員数	4 人	開催頻度	年2回

企画推進委員会の構成員(委員)

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名	旅費
1	友重 文徳	麻生医療福祉 & 保育専門学校	事業統括	○	福岡県	
2	藤永 直紀	九州ヘルスケア産業推進協議会	助言	○	福岡県	○
3	清崎 昭紀	株式会社ネクストキャリア	助言	○	福岡県	○
4	坂本 好夫	九州先端科学技術研究所	助言	依頼中	福岡県	

会議名②	プログラム開発委員会		
目的・役割	教育プログラム開発に必要な情報の調査、教育プログラム開発		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・病院等にヒアリングを行い、診療情報管理士に求められるスキルや知識を特定する。 ・特定した必要スキル、知識を分類し、教育カリキュラムに反映させる内容を確定する。 ・上記をともに教育プログラムの開発(カリキュラム、シラバス、コマシラバス等)を行う。 		
委員数	7 人	開催頻度	年4回 ※うち2回は全体会

プログラム開発委員会の構成員(委員)

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名	旅費
1	案納 賀世子	麻生医療福祉 & 保育専門学校	委員長	○	福岡県	
2	近藤 憲児	近藤憲児事務所	開発・調査	○	福岡県	○
3	桑田 みゆき	河原医療大学校	開発・普及	○	愛媛県	○
4	西山 謙	九州大学病院	開発・調査	○	福岡県	○
5	石黒 涼子	中央情報経理専門学校	開発・普及	○	群馬県	○
6	熊谷 英幸	吉田学園医療歯科専門学校	開発・普及	○	北海道	○
7	内藤 道夫	鈴鹿医療科学大学	開発・調査	○	三重県	○

会議名③	実証・検証委員会				
目的・役割	実証・検証方法の検討、実証・検証結果に基づく改善事項の提案				
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開発したプログラムの実証方法(授業・実習)の検討、効果の検証を行う。 ・検証結果をプログラム開発委員会にフィードバックする。 				
委員数	5 人	開催頻度	年4回 ※うち2回は全体会		

実証・検証委員会の構成員(委員)

	氏名	所属・職名	役割等	内諾	都道府県名	旅費
1	中嶋 翔平	麻生医療福祉 & 保育専門学校	委員長	○	福岡県	
2	三好 誠	湘南藤沢総合病院	調査・実証 実習受入	○	神奈川県	○
3	岩穴口 孝	鹿児島大学病院	調査・実証 実習受入	○	鹿児島県	○

4	畑瀬 晋也	佐賀大学病院	調査・実証 実習受入	○	佐賀県	○
5	須貝 和則	国立国際医療研 究センター	調査・実証 実習受入	○	東京都	○

○事業を実施する上で必要な調査 ※複数の調査を実施する場合には、適宜追加して記載すること。

調 査 名 ①	病院などの医療機関における新卒採用人材に求めるスキルレベル 調査
調 査 目 的	教育プログラム開発に向けた情報収集を行い、病院が求めている人 材要件と専修学校が定めているディプロマポリシーが整合している かを確認し、新たに開発する教育モデルの必要な要素を洗い出す。
調 査 対 象	5 院程度の特定機能病院の経営幹部、採用責任者 等
調 査 手 法	アンケートとデプスインタビュー
調 査 項 目	新卒人材に求めるスキルセット、入社 3 年以内の職員が実際に行っ ている業務内容、調査対象となる病院での AI 活用事例等
分 析 内 容 (集 計 項 目)	病院現場で求められる人材要件の類型化、AI リテラシーレベルの整 理 等
構築しようとして いるモデルの検 討にどのように 反映するか (活 用 手 法)	専修学校で行うべき人材育成や、知識、技術要素を特定し、カリキュ ラムに反映させる

調 査 名 ②	病院などの医療機関におけるバックオフィス業務の現状調査
調 査 目 的	AI ソリューションを導入する前の医療現場における業務工程を把握 することで、AI 導入後の状態との比較対象を明確化する
調 査 対 象	5 院程度の特定機能病院の事務長を始めとした現場担当者 等
調 査 手 法	アンケートとデプスインタビュー
調 査 項 目	現状の業務フロー図、業務上の課題のリストアップ 等

分析内容 (集計項目)	病院の現場の業務の改善点の所在、起こっている問題の類型化
構築しようとしているモデルの検討にどのように反映するか (活用手法)	現場の改善に直結する問題解決スキルをカリキュラムに反映させる

調査名 ③	AIなどデジタルツールを用いた業務効率化に必要なAIリテラシー調査
調査目的	業務DXを行う上でAIを活用するために、どのようなスキル獲得が必要であるかを可視化すること
調査対象	当該技術を先進的に利活用している、日本国内にあるAIソリューションを提供している企業3社程度
調査手法	アンケートとデプスインタビュー
調査項目	実際の業務効率事例とそれを実行した人材のAIリテラシー、対象企業の人材育成プログラム等
分析内容 (集計項目)	業務効率を高めるためのAI利活用の類型化、AIリテラシーを高める学習方法など
構築しようとしているモデルの検討にどのように反映するか (活用手法)	教育プログラム作成に関する基礎資料とする

○講座の開設に際して実施する実証講座の概要

実証講座の対象者	麻生医療福祉&保育専門学校 AI&診療情報管理士の学生全員 プログラム開発委員に参画している3校の対象学科の学生
期間 (日数・コマ数)	① 2025年4月 1コマ ② 2025年8月 1コマ
実施手法及び実施内容	① 入学時のAI、データ分析に関する実力を測るテストを行い、個人別に数値化する ② 1年生前期に実施する科目を修了した時点での成長を測るテストを実施、①同様数値化し、差分を成長量とみなす

想定される 受講者数	麻生医療福祉 & 保育専門学校 10 名程度(入学見込) プログラム開発委員の対象クラス学生数(入学見込となるため申請時点 では不明)
---------------	---

(iii)開発するモデルの検証

●学生の IT および AI スキルを定量的に計測することを起点に、実習でスキルを活かすことができたかを計測する検証方法を完成させる

① 入学時点での IT および AI リテラシーチェック

- ・ IT リテラシー、AI の基本概念、AI の応用と倫理、実践的な AI スキルの大きく 4 つのセクションに切り分け入学当初の理解度を可視化する。
- ・ セクションに応じたグラフを個人単位で作成し、理解度を可視化する。

② IT および AI 関連の科目の単元ごとに実力テストを実施し、①との差分を測り、それを習熟度として可視化する(2 年次前期末まで)

- ・ シラバスに記載している科目の各授業で実施する単元ごとに確認テストを行い継続的な知識技術の習得を図る。
- ・ 入学時から 2 年生前期末までを対象とし、確認テストの結果を①と同様に個人単位で作成する。
- ・ 入学当時と 2 年生前期末のテストスコアの差分を可視化し、それを習熟度として可視化する。

③ ② の習熟度の状態で臨んだ 2 年次後期の病院実習にて、既存の実習評価表をブラッシュアップし、病院関係者からの評価を得る。

病院実習で行う業務を完了させるまでの時間、工数を、AI 使用有無に応じた業務削減度合いを病院関係者にヒアリングする。

実習で業務改善が叶わなかった場合、実習後、振り返りの授業にて同様の検証を行い、実習した病院にレポートする。

④ ③ の内容を踏まえ、1 年次前期から 2 年次前期末までのカリキュラムの見直しを図る。

実習の振り返りが終了した段階で、1 年次から 2 年前期末までのカリキュラムの中で、AI スキルの向上を意図した学生の成長に寄与しているかどうかを②のテスト結果を元に検証し、寄与度の低かったものを改善する。併せて、寄与度の高かった要素を分析し、他の科目にも展開できる余地がないかを確認し、カリキュラムのブラッシュアップを図る。

●学生に指導する教員のスキル評価についても以下の観点で実施する。ただし、カリキュラムを実行していく中で、検討時に想定し得なかった変更を加える可能性あり。

1. 基礎的な AI の知識とデータ分析における技術スキル

- ・AI の基本概念: AI、機械学習、ディープラーニング、自然言語処理などの基本的な概念を理解し、説明できること。
- ・データの扱い: データセットの収集、クレンジング、分析といったデータサイエンスの基礎知識とスキル。
- ・アルゴリズムの理解: 機械学習アルゴリズム(線形回帰、決定木、クラスタリング、ニューラルネットワークなど)を簡単に説明し、デモンストレーションできること。

2. 教育スキルと指導力

- ・教育方法論: 学習者のレベルに応じた効果的な教授法を理解し、応用できること。難しい概念を分かりやすく説明し、実践的な例を用いた教え方ができること。
- ・カリキュラム作成: 18 歳の高卒者向けの AI リテラシーカリキュラムを作成し、効果的に指導できること。プロジェクトベースやハンズオン学習の手法を取り入れ、実際に手を動かして学べる環境を整える。
- ・評価方法: 学習者の理解度を適切に評価し、フィードバックを行うスキル。

3. 倫理と社会的影響に関する理解

- ・AI の倫理: AI 技術の開発と応用に伴う倫理的課題(バイアス、プライバシー問題など)を理解し、これらを生徒に教えることができる。
- ・社会への影響: AI が社会、仕事、生活に与える影響を理解し、これらの知識を基に AI の可能性とリスクをバランスよく教えるスキル。

4. 継続的な学習姿勢

- ・技術の進歩に対応: AI は急速に進化する分野であるため、常に新しい技術やトレンドに対する学習意欲を持ち、自己学習やスキルの向上に努めること。

5. プロジェクト管理能力

- ・プロジェクトの設計と管理: 学生が実践的な病院実習などでの AI 活用シーンに際し、その進行をサポートし、効果的に管理できること。目標設定、進捗管理、成果物の評価を適切に行うスキル。

●提案者以外の教育機関での導入可能性の検証

以下、3点を通して、他校での導入に向けてカリキュラムの改善を図る。

- 1 各委員会に参画している学校にて、実証授業を実施し、学生の理解度を計測する。
- 2 実証授業を担当した教員へのヒアリングを行い、指導側の課題を抽出する。
- 3 実証授業・実習結果を共有し、各委員会に参画している学校での導入可能性について意見交換を行う。

(5) 事業実施に伴うアウトプット(成果物)

- 医療現場の業務 DX に資する AI 人材育成に向けたカリキュラムとシラバス
医療現場の業務 DX に資する AI 人材として必要な AI スキルを理解し、AI を活用し、医療現場の業務効率化を図ることができる人材を育成するための 3 年間のカリキュラム、及びシラバス。AI 関連の全科目のシラバスを付加する。
- AI 基礎、応用、演習授業で活用する教材
P8 の2に記載している AI 関連授業で活用する教材。
- 理系学科への転換計画、県への申請資料の提出
- P12-13 記載の各種調査結果報告書
P12、13 に記載した、「病院などの医療機関における新卒採用人材に求めるスキルレベル調査」、「病院などの医療機関におけるバックオフィス業務の現状調査」、「AI などデジタルツールを用いた業務効率化に必要な AI リテラシー調査」の調査結果報告書
- P14 記載の検証結果報告書
P14 記載の①～③の検証結果報告書、④で実施するカリキュラム検討の新旧対照表
- 理系教員の追加配置
常勤教員 1 名採用、非常勤講師 3 名程度
- 病院実習の計画書と実施報告と評価サマリ
P8、9 の3に記載した病院実習の実習報告書と評価報告書

(6)事業実施によって達成する成果及び測定指標

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和6年度	令和7年度	令和8年度
【必須】取組の普及・展開を行った団体数	目標値	団体	0	10	25	50
	実績値	団体				
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 実証授業実施報告書、実習報告書の枚数						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和6年度	令和7年度	令和8年度
実証授業における学生の AI スキル習得度	目標値	点	0	60	80	100
	実績値	点				
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 入学してくる全学生が対象 単元ごとに実施する確認テストのスコア						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和6年度	令和7年度	令和8年度
実証実習における病院での業務時間短縮(60分かかる業務が30分に短縮できれば50%)	目標値	分	0	10	12	15
	実績値	分				
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 実習病院にて改善前後の業務完了時間計測(改善による効果を時間で計測する) 実習後の振り返り授業での検証						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和6年度	令和7年度	令和8年度
教材の更新頻度とその最新性	目標値	回	0	5	5	5
	実績値	回				
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 年度当初に準備した教材を学生の理解度、最新事例などを踏まえ適宜更新した回数を計測 学科、科目単位ではなく、教員一人あたりの更新回数を対象とする						
KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	令和6年度	令和7年度	令和8年度
学生の学習理解レポートの文字数	目標値	字	0	25	30	40
	実績値	字				
	達成度	%				
(上記 KPI の測定手法) 毎授業後に実施する学習理解レポート(分かったこと、わからなかったこと)文字数を計測 レポートへのフィードバックを AI を用いて実践し、理解度を高めていく過程でレポート文字数も比例して増えると仮定						

(7)事業終了後に実施予定の取組及び成果の活用方針・手法

■教育プログラムの普及

- ・教育プログラムおよび教材は、麻生医療福祉 & 保育専門学校において令和9年度より導入を開始する。
- ・本事業参画専修学校にも、継続して麻生医療福祉 & 保育専門学校における取組みを共有し、導入に向けたサポートを行う。
- ・報告書を作成し、全国専門学校教育研究会の協力のもと、同会の会員校に対して紹介および導入をお願いする。また、同会の複数校より授業視察や成果発表の依頼がある場合は、同会と連携して授業見学会を実施する。

■成果の活用方針・手法

- ・本事業報告書を診療情報管理士を育成する学科を持つ専修学校へ送付する。
- ・令和9年度に、麻生医療福祉 & 保育専門学校にて、同プログラムを導入開始。
- ・本プログラム受講生が社会に出る令和12年度に、就職先企業にてヒアリングを実施。企業ニーズとのギャップ、業務への影響の変化などを確認し、それらの内容を基に、プログラムを改善する。
- ・これらの内容を定期的に、全国専門学校教育研究会にて共有する。

■事業期間終了後のフォローアップ体制

- ・麻生医療福祉 & 保育専門学校、本事業に参画いただいた病院等、およびプログラム開発に携わるIT企業により教育内容検討組織(教育課程編成会議と連動することが望ましい)を設置し、引き続き医療業界のニーズを常に把握し続けるとともに、その内容を教育に反映し、医療業界におけるDX人材育成モデルを構築する。

今年度の取組に関する年間スケジュール

	取組内容①	取組内容②	取組内容③	取組内容④	取組内容⑤
	キックオフ全体 会 分科会	病院ニーズ調査	AI の現状調査	カリキュラム及 び実習内容検討 会議	準備
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月	全体会にて全体 像を共有 分科会にて詳細 説明	病院現場におけ る課題調査と取 組む課題決定	業務 DX を提供す る企業への調査		
11月		↓	↓		
12月		↓	↓	・課題解決に向 けたカリキュラ ム策定 ・両分科会にて ②③の結果共有	
1月				↓	
2月				↓ ・プログラム開 発委員会にてカ リキュラムの合 意形成 ・実証・実習委 員会では議論継 続	実証講座に向け た準備
3月					↓